

株式会社 本田技術研究所

1. 名称：Honda イノベーションラボ Tokyo
2. 目的：都心設置により、大学や企業との連携を強化する
3. 設立日：2016年9月
4. 場所：東京都港区赤坂5-3-1 赤坂 Biz タワー
5. 概要：

Honda イノベーションラボ Tokyo は、知能化技術の研究開発を行う同社の拠点であり、既存の研究所から切り離して東京・赤坂に開設することにより、グローバルで新たな人材を幅広く集め、外部有識者や研究機関との連携を図る「共創の場」となっている。2017年4月に新設した、ロボット関連など新領域の開発を担当する「R&D センターX (エックス)」の窓口機能も担っている。

また海外では、シリコンバレーの開発拠点内に、ビジネスアイデアを発掘する「Honda Developer Studio」をオープンさせている。さらにオープンイノベーションを通じて革新的な製品やサービスを作り出すための取り組みとして「Honda Xcelerator」プログラムを推進しており、シリコンバレーを中心に活動を世界中に広げている。

6. 取材日：2018年7月23日

7. ヒアリング結果

(1) 設立のねらい～既存の研究所から切り離し、都心開設により外部企業との連携を強化～

同社は日本6箇所および世界11箇所に拠点を設置している本田技研工業(株) (Honda) の研究開発機関である。米国シリコンバレーの開発拠点に、共同研究のイノベーション施設「ホンダ・シリコンバレー・ラボ (HSVL)」を立ち上げ (その後2017年に「ホンダ R&D イノベーションズ」として法人化している)、グローバルでスタートアップ企業との協業を行っている。

これらに加え、AI技術の研究開発を強化し、外部企業との連携を図る共創の場とするため、2016年に東京・赤坂に「Honda イノベーションラボ Tokyo」を開設した。同ラボは、ロボティクス、モビリティシステム、エネルギーマネジメントなどの領域を担う研究開発組織として2017年4月に新設された「R&D センターX」(埼玉県和光市) の外部窓口機能も担っている。

(2) 世界に活動を広げる Honda イノベーション～技術者によるサポートで共創～

同ラボ (東京) では、主にソフトウェアを含めて知能化技術 (AI) に関する研究開発を行っている。既存の研究所から切り離し、都心に拠点を設けることで、外部企業との連携

を強化する「出島」としての役割を持っている。大学とは共同研究を、大・中小企業を問わず企業とは協業することにより、お互いの強みを活かし、互いにウィンウィンの関係を目指している。

同ラボ設置に先立つ2014年12月には、HSVL内に「Honda Developer Studio」をオープンしている。Honda Developer Studioはビジネスアイデアを発掘するスタジオで、一般のアプリ開発者がHondaの技術者と協働し、実際のクルマの画面での見え方、アプリの操作性などを誰でも検証できるよう、オープンな実験スタジオにして、クルマでの使用に最適化したアプリ開発を行うことを支援している。

また2015年より、オープンイノベーションを通じて革新的な製品やサービスを作り出すための取り組みとして「Honda Xcelerator」プログラム（下資料）を推進している。シリコンバレーを中心に、主にイスラエル、米国ボストン、他に米国デトロイト、ヨーロッパ、日本、中国など、世界に活動を広げている。Honda Xceleratorは革新的なアイデアを持つスタートアップに対し、プロトタイプの開発資金や開発環境、テスト車両の提供、そして特に重要なのがHonda技術者（メンター）によるサポートであり、ウィンウィンな形での協業をしていくことを目的としている。エネルギー、ヒューマン・マシン・インターフェース（HMI）、パーソナルモビリティ、自動運転、人工知能（AI）、先進素材、ロボティクスなどの領域を開発対象とし、モビリティやエネルギーマネジメントの進化を目指している。

「R&DセンターX」はこれまでの「基礎技術研究センター」を母体に、2017年4月1日に新設したもので、スピード感を重視するため、部署単位ではなく、プロジェクト単位で開発に取り組んでいる。

資料 「Honda Xcelerator」 プログラム

What is Honda Xcelerator?

Honda Xcelerator はテクノロジーやビジネスの変革を目指すイノベーターのためのプログラムです。資金調達などの段階にあっても参加することができます。Honda はイノベーターの皆さんがオープンでフレンドリーなコラボレーションができるように、このプログラムを立ち上げました。このプログラムはこれまで、ラピッドプロトタイピングや PoC の開発資金、コラボレーションスペース、Honda からのメンタリングを提供してきました。

What we offer

プロトタイピング用の開発資金

スピーディーなプロトタイピングと価値検証 (PoC) のための資金を提供します

コラボレーションスペース

世界各国にあるコラボレーションスペースを使用できます。各スペースには、試作品作りに役立つ最新のツールが揃っています。

Honda メンター

Honda Xcelerator に採択された全ての企業に、Honda のメンターを提供します。メンターは様々なナレッジをシェアし、皆さんのプロトタイピング開発等を支援します。

テストプロダクト

プロトタイプ開発やテストに必要な、Honda Xcelerator の車両や、データを利用することができます。

Our Process

APPLY: 申込書の提出 一次選考を通過した候補者は、フォローアップデモに招待されます。

EXPLORE: 価値検証 プロトタイピングと検証する価値を定義します。

BUILD: Honda Xcelerator への採択 Honda と協業し、PoC プロトタイプを製作します。

SHOW: Honda の役員および開発チームの前でデモンストレーションを行い、Next Step を目指します。

OUR FOCUS AREA

人工知能 (AI) / ロボティクス コネクテッドカー

ヒューマン・マシン・インターフェース (HMI) 生産技術

パーソナル/シェアモビリティ 車両データビジネス 車両内アプリ

エネルギー

資料 : <http://xcelerator.hondainnovations.com/ja/>

(3)カラフルなラボ～オープンマインドでスピード感を重視～

同ラボの入口の壁のオブジェ（写真右）は、向かって右の白い部分から植物があらわれ立体的にせり出してきた、同じ木にブドウや柑橘類が実っているが、これは「何も無いところから、あり得ないものを創り出し、人々に届けたい」という想いを表現しているという。

一般に研究開発機関の内装はグレー色が中心であるが、同ラボは「失敗をおそれずチャレンジできるように」という考え方からカラフルな色を使っている。執務機の周りはモノトーンとして気がちらないようにしつつ、通路はブルー、リースペースは木目を使い、色で空間を仕切っている（写真下左）。



写真 ラボの入口にあるオブジェ



写真 ラボの内装

仕切りも透明ガラスでオープンにすることで、社内外の人とコミュニケーションを取りたいという「オープンマインド」を表すとともに、開発のスピードを速めようという意味がある、とのことだ。

全体に壁がなく、柱を配置することで「囲われた感」を感じることができる空間になっている（第30回 日経ニューオフィス賞とインテリアプランニングアワード2018 特別審査委員賞を受賞している）。また、この柱には軽量で簡単に移動可能なホワイドボードが設置され、

キャビネット上はテーブルになるため、すぐに打ち合わせや作業ができる。

会議室の仕切りガラスの世界地図が南北を「逆さ」にしたり、「北極から見た地図」（写真右）になっているのは「いろいろな方向から、発想してみよう」という考え方を表現しているという。入口にはカフェ（テーブル）エリアがあり、ガラスのパーティションで仕切ること、ピッチやプレゼンなどで利用できる（20名～100名収容可）。



写真 会議室の仕切りガラス
（北極から見た世界地図が描かれている）

以上